

1 実践の概要

テーマ	三種町のハザードマップを学び、地域の防災や減災について考える
外部指導者	秋田大学地域防災減災総合研究センター 教授 水田 敏彦 氏
実施日時	令和6年10月23日（水） 午後1時30分から 3時10分まで
実施場所	三種町立八竜中学校
参加者	生徒97名 教職員15名

2 実践内容

講演や演習等の様子	- 過去に三種町周辺で起こった地震災害を知る（当時のニュース映像・新聞記事から） 1983年日本海中部地震について 2024年能登半島地震と共通点から見えてくること - 三種町の災害対策のホームページについて 「消防防災係」のページが充実 「三種町WEBハザードマップ」の見方・活用の仕方 - 災害についての心構え、準備について - 質疑応答 
-----------	---

3 参加者の感想

生徒	・災害は、実際に起こりうる様子を知ることによって怖くなくなり、「まさか」ではなく「いつか」起こるものと考えることが大切だと分かりました。過去に液状化が発生した所は、これから先も同じようなことが起こる可能性があるということも分かりました。今回の授業を踏まえて「自分は大丈夫」と思わずに生活していきたいです。 ・家の近くで液状化が起こる可能性があり、そうすると建物が倒れてしまうかもしれないことが分かりました。また、津波が押し寄せてくると、低い津波でも人は簡単に流されることを理解しました。正しい「知識」「準備」「行動」を心がけたいです。 ・災害に対する対策をしっかりと学べば、地震や津波などから安全に避難できることが分かりました。休日などに災害が起こる場合に備えて、家族と話をしたり準備をしたりしたいです。ハザードマップを見て、避難場所の確認もしたいです。
----	---